

名古屋支部

名古屋支部（新美三良支部長）は、平成30年2月21日（水）会員24名の参加により視察研修会を行いました。

午前は中部国際空港の『セントレアまるわかり滑走路見学ツアー』に参加しました。ツアーは滑走路のある制限区域に入るため厳重なセキュリティチェックを受け、最後にカバンの中の確認（危険物所持の有無）後、搭乗パスが渡されます。また、制限区域への入り口は二重ゲートになっており、警備員の確認後、警備員もバスに同乗しゲートを通過しました。滑走路エリア内でのバス走行は2台の先導車に挟まれ外周をゆっくりと進み、車窓からは間近で見る飛行機の大きさに感嘆の声が上がりました。車内ではツアーガイドのウイットに満ちた楽しい説明を聞き、より空港施設への関心が高まりました。バスは普段見ることが出来ない駐機場や格納庫の前を通り、見学エリアで参加者は降車しました。フェンスで囲まれたエリアからは、飛行機が目の前を離着陸していき、尾翼の航空会社のロゴマークが大きく見えました。また離陸時のエンジン音や、航空燃料のおいなど飛行機をととても近くに感じ、大変貴重な体験をすることが出来ました。記念撮影はフェンス前で、飛行機の大きさに圧巻されながらも充実した表情で撮ることができました。



見学エリアで記念写真

午後から視察したオオブユニティ（株）の『横根バイオガス発電施設』（大府市横根町惣作 236-1）は低炭素社会、資源循環型社会の一翼を担う施設とし

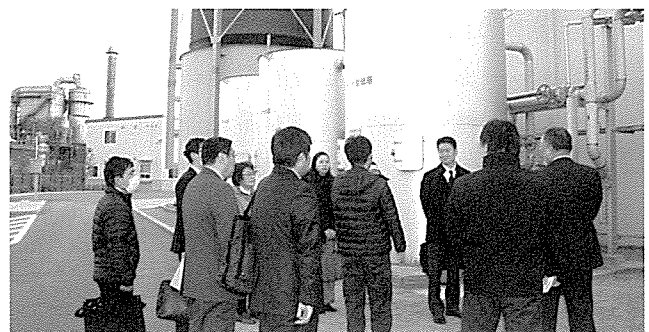
視察研修会



藤崎次長から概要説明をうける参加者

て、大府市バイオマス産業都市構想の基に誕生しました。当施設では、多種多様なバイオマス資源を発酵原料として利用し、電気や熱、堆肥に変換させ、地域内で循環し活用することを目指しています。

処理方法はメタン発酵施設の約8割が採用している湿式中温メタン発酵で、発酵槽は37℃に保たれ、処理能力は70t/日で、発電量は15,000kWh/日で1,500世帯相当の電気を発電することが出来ます。受け入れられているバイオマス資源は生ごみや食品残渣といった固形物からグリーストラップ汚泥やデスポーザ汚泥などの有機汚泥、ジュースや牛乳といった有機廃液まで処理されます。また、メタン発酵の過程で発生する発酵残渣を脱水・乾燥し、乾燥堆肥として有効活用するよう販路を開拓中とのことでした。



工場見学の様子

視察に際して数々のご配慮を頂きました環境ソリューション事業部の浜辺 久部長様並びに藤崎功太郎次長様に参加者一同深く感謝を申し上げます。今回の視察研修に参加し、参加者全員が、貴重な知見を得たことを感謝し、帰路につきました。